



## 道徳教育に通じるキャリア教育

内山建設 代表取締役 **内山 雅仁**

一番身近なキャリア教育は、その子の親や祖父母であったりするわけですが、なかなか身内の子供に対して「自分の仕事を見に来てごらん」とか「働くということは、こういうことだよ」などと言出しにくいものです。

今回スタートしたキャリア教育制度を通して、子供たちは第三者の方から「働くこと」について話を聞く機会を得ることができ、その大変さ、崇高さを感じることで、仕事に向かい合う親や祖父母に対して尊敬の念を持つことができます。「親や祖父母を敬う姿勢を持たせる」というのは究極の道徳教育であり、その意味からもこの制度の推進は非常に意義あるものだと思います。



## 地域と子ども達をつなぐ一年間に

日向市立幸脇小学校 校長 **中西 浩美**

幸脇小学校は、美々津小学校との統廃合が決まり、137年間の歴史を刻みつつ今年度をもって閉校します。校長として、「つなぐ」をキーワードに、『閉校しても、今後も地域と子どもたちがつながる一年間にする。』ことを経営ビジョンに掲げ、本校最後の年の締めくくりとしました。

そのために、キャリア教育に取組み、地域に関わる体験活動を取り入れながら多くの地域の大人に関わっていただきました。学校は閉校しても、この幸脇地域で子どもたちは生活していきます。今後も地域の人々との関わりを通して、自分達が住むふるさとを愛し、夢や希望を持って地域の一員としての自覚を持って成長してくれることと思います。



## 本校のキャリア教育について

日向市立財光寺中学校 校長 **土井 智喜**

本校ではキャリア教育の考えを踏まえた様々な取組を進めています。特に昨年度からは、授業の中でキャリア教育を重要視している基礎的・汎用的能力を、生徒が身につけることができるように職員研修を行い、全職員で授業研究も行なっています。行事等では、キャリア教育支援センターの御支援と地域や各事業所の皆様の御協力を得て、1年生では環境教育、福祉・防災体験活動、13歳のハローワーク、2年生では職場体験学習、修学旅行、立志式、3年生では進路学習、高校出前授業、面接指導などを計画的に実施しています。本校では、今後もこのような3年間を見通した系統的かつ総合的な取組を進めることで、日向を愛し日向を支え、「目標や夢をもって、様々な困難にチャレンジし、自ら進んで学び続ける生徒」の育成に取り組んでいます。



## 子供たちの未来づくり

日向市キャリア教育支援センター コーディネーター **富山 隆志**

昨年末、35年住む家を全改修した。93才の母を介護するためだ。驚いたのは風呂が話す。ボイラーのスイッチを入れると「もうすぐお風呂が湧きます」と優しい女性の声。その後、音楽と拍手。「お風呂が湧きました。お入りください」と言う。お湯を沸かすのにCO<sub>2</sub>が何キロ発生したと知らせる方が大事だと思うのだが、便器は話さないが自動で開閉する。母は扉を開き便器に向かい「はよ開けね」「あんたはおりこじゃね」と言い用を足す。水が流れ便器のフタが締まる。母は「ありがとうね」と礼を言って出る。

子供たちは地域・家庭・学校の手厚いケアを受けながら育っている。全人口に占める子供の割合はピーク時に24%、やがて8%と実に1/3までになる。労働人口も減少し母や私のような高齢者が60%を越す。私たちは未来を創る子供たちに何を残すのかが問われている。

当センターが開所して3年。スイッチの向こう側にあるモノ、便利の価値も大事だが、不便の価値に触れさせることが大事な時代になる。当センターも先生方と子供たちの未来づくりに必要な教育の価値を創造し産み出す仲間になりたいと思う。





大王谷学園初等部

子どもを「一人前の社会人・職業人」、「一人前の地域人」、「一人前の家庭人」に育てる教育を目指して、各学年の発達段階を踏まえた上で、核となる体験活動を設定し、実施しました。

〈第2学年の実践〉

「レッツゴー!! 町たんけん  
~はたらくっていいな~」

平成27年7月10日(金)

地域で働く方々に実際にお話を聞くことができました。調べたことをグループごとに紹介しました。



〈第4学年の実践〉

「日向市の特産物調べ  
~日向ブランドのひみつをさぐれ!~」

平成28年2月5日(金)

よのなか教室の先生方へ日向ブランドについてインタビューしました。「日向ブランド」の生産物に目を向けることで地元(郷土)に関心をもちたせることができました。



赤木 暮石製造所  
赤木 利光さん  
へべす生産農家  
成合 利浩さん  
JA日向みやざき地頭鶏センター  
伊東 松美さん  
日向市林業水産課  
黒木 伸介さん  
マンゴー生産農家  
一政 洋介さん、奈須 利幸さん

〈第6学年の実践〉

「大王谷の福祉について考えよう」

平成27年6月11日(木)~12月14日(月)

地域の福祉について「調査⇒診断⇒模擬訓練⇒会議⇒福祉活動の実践」の流れで学習し、地域の一員としての自覚が芽生え、地域のために何か行動を起こそうという児童が増えてきた。



九州保健福祉大  
小川 敬之教授

日向市社会福祉協議会  
成合 進也さん



東郷学園

この1年間、発達段階に応じて、児童・生徒とよのなか先生との間で経験・体験を通して対話が成立することを目標に取り組みました。

・高校生よのなか教室

2015年2月4日

8年生(中2)24名(女子10)で開催

「よのなか先生」は門川、富島、日向工、日向の各高校生2名ずつ8名。同学園を卒業した1、2年生。中学の学びを高校につなぐ。進路選択、立志式に活かす。



・命を学ぶ

2015年11月20日

1年生13名が学習

よのなか先生 日向市社会福祉協議会 細山田恵美子さん。

赤ちゃん人形を抱っこした児童の表情は優しさいっぱい。

自分の命も、友達の命も大切にしていこうとしっかり学んだ時間でした。



・自分らしさ

2015年11月27日

小学部5年生20名

よのなか先生 宮崎日日新聞記者 島田喜恵さん。

子供たちは自分の良さをカードに書き自分メッセージを発表。

島田さんから質問。相互理解を深めた。その後、児童からたくさんの質問が。事前の学習と自分メッセージが活発な双方向の会話を生んだ。

